

Press Release



<<報道資料>>

2012年10月11日

日本コンピュウェア株式会社

新しい Compuware Strobe で、 より速く、より多くのパフォーマンス問題の予防的解決が可能に。 メインフレームの可視化も進展

Compuware APM PurePath for z/OS との統合により、

トランザクションの可視性を統一化。

自動化、インテリジェント分析、メインフレーム操作の使いやすさなどの機能が充実し、

コスト削減、顧客満足度向上、增收に貢献

※当資料は、コンピュウェア コーポレーションが米国時間2012年10月9日に発表した報道資料の抄訳です。

米国ミシガン州デトロイト - 2012年10月9日発表 - コンピュウェア コーポレーション (NASDAQ: CPWR) は、本日、メインフレームアプリケーションパフォーマンス計測・分析用ソリューションである Compuware Strobe の機能拡張を発表しました。Strobe に先進的な自動化機能とインテリジェント分析が加わり、使いやすさも向上しています。開発担当者がパフォーマンスの劣るトランザクションの識別と解決が迅速に行えるようになったことにより、顧客企業は、コスト削減、顧客満足度向上、增收が見込めるようになりました。

Web やモバイルアプリケーションの多様化によって、メインフレームに課される要求が高度になっている現状に応えるため、Strobe と Compuware APM PurePath for z/OS テクノロジーがシームレスに統合され、Compuware APM for Mainframe (詳細は本日付の別リリースにて発表) の誕生に至りました。Compuware APM for Mainframe は、アプリケーションのデリバリーチェーン全体でエンドツーエンドの可視性を提供する、業界初にして唯一のトランザクション管理ツールです。

Compuware dynaTrace の特許取得済み PurePath テクノロジー と Strobe の比類なきメインフレームアプリケーション管理技術を組み合わせることにより、分散型システムとメインフレームのチームは、パフォーマンス問題をより迅速に解決し、MIPS コストを削減し、ハードウェアのアップグレードサイクルを延長させ、タイムトゥマーケットを加速させることができます。

PurePath for z/OS が問題を起こしているトランザクションを突き止めると、シングルクリックで Strobe がアプリケーションコードとロジックのディープな分析を始めます。この新機能により、メインフレーム担当者は、分散型アプリケーションの動向がメインフレーム CPU サイクルに与える影響について判断できるようになり、迅速な問題解決と、よりスマートな MIPS 管理が可能になります。

エンタープライズマネジメントソリューション社の副社長である Dennis Drogseth 氏は、次のように述べています。

「APM とサービス管理のより広範な視点から見ると、メインフレームはあまりにも長い間、隔離した存在として扱われてきました。コンピュウェアがメインフレーム用 APM を導入したことにより、コンポーネントとトランザクション中心の統合分析が可能になり、分散型およびメインフレームスキルグル

「一歩間での優先順位付け、そしてアプリケーションとインフラストラクチャの計画を行う際の障害が取り除かれるでしょう。アプリケーションを連動させることで真のユーザー体感を実現し業績に結実させるコンピュウェアの能力により、技術的なドリルダウンに説得力と関連性が生まれたのです」

Strobe と PurePath for z/OS の統合により、トランザクションの完全可視化が実現

Strobe と PurePath for z/OS の統合により、ユーザーは、あらゆる階層における顧客の最初のクリックから、メインフレームに向かうものであれ、その逆であれ、アプリケーションのデリバリーチェーン全体にわたり、24 時間 365 日、休みなくトランザクションを追跡できるようになりました。Strobe は、詳細なデータを提供して不具合の出所と原因を突き止め、パフォーマンス問題を解決するための推奨事項を提示します。Strobe のユーザーは、ここで提示される全体像に従い、CPU 消費とハードウェアコスト管理に関するより的確な決断を下せるようになります。顧客企業に影響を与える前に問題を解決し、予防できるようになります。

コンピュウェアのメインフレームソリューションビジネスユニット担当のゼネラルマネージャ兼シニアバイスプレジデントである Kris Manery は次のように述べています。

「分散型環境が CICS トランザクションに与える影響に関して、IT 業界はこれまでほとんど無知でした。多くのチームが迅速な修正を試みましたが、エンドツーエンドの可視化とコードとロジックのディープな分析ができずに、不充分なデータで複雑な問題に取り組んでいる有様だったのです」

Strobe と PurePath for z/OS の統合により、CICS アプリケーション内に問題が生じた場合、分散型システムとメインフレームの双方のパフォーマンス管理専門家が協調して解決に取り組めるようになりました。さらには、CICS トランザクションの 24 時間 365 日の休みない統合モニタリングにより、IT 業界はシステム同士の相互作用と、それによるメインフレーム負荷や MIPS への影響も完全に監視できるようになります。将来に起こりうる問題も予防できるようになったのです。この画期的な技術により、解決までの平均時間が大幅に短縮され、顧客満足度が向上します。

また、dynaTrace PurePath for z/OS テクノロジーとのシームレスな統合により、Strobe にはさらなる機能が追加されました。

パフォーマンスの問題を迅速に識別する Strobe Advisor

iStrobe に「Strobe Advisor」が追加され、困難な問題が次々に発生する環境下でも、メインフレームに不慣れな IT 担当者ですら、アプリケーションパフォーマンスの問題を管理できるようになりました。Strobe アドバイザーは iStrobe プロファイルのインテリジェントな分析に基づき、パフォーマンス向上に結び付くクリティカルなポイントの詳細なリストを自動的に発行します。

グローバルモニタリングの機能拡張

メインフレームアプリケーションがモバイルコンピューティングの基礎となるにつれ、CICS トランザクションはその数を増やしています。メインフレームの増加に合わせ、Strobe には大幅に拡張されたオンラインの CICS トランザクションモニタリング機能が備わり、低オーバーヘッドで制御不能の(バッチジョブステップも含む)CICS トランザクションを予防的に識別するようになりました。Strobe は選択されたバッチジョブステップのすべてを監視し、経過時間あるいは CPU 時間内に 30 日の平均移動距離を超えた場合には、自動的に Strobe セッションを開始します。

BIRT レポーティングフレームワーク

iStrobe の基本レポーティングインフラストラクチャが Eclipse Business Intelligence Reporting Tool(BIRT) レポーティングフレームワークに更新され、iStrobe のパフォーマンスデータベースが以

前より使いやすくなりました。BIRT はカスタマイズされたレポート作成において業界最先端の機能を誇り、顧客それぞれのニーズに応じたレポートが簡単に作れるようになりました。

IBM システムマネジメントファシリティ(SMF)(タイプ 30 とタイプ 70)からの追加データがオプションで利用できるようになり、より概論的なトレンド分析によるレポートが可能になりました。さらに、このデータによりシステム全般を捉えた視点が提示され、パフォーマンスの機能停止の初期診断が簡単になりました。Strobe は SMF を CICS 領域からのデータ同様に 24 時間年中無休でキャプチャするので、トランザクションの反応時間が遅くなった場合や、トランザクションの量が増大した場合には、ユーザーに通知されます。

ヒント、技術、ベストプラクティス

ビデオを通じて、利用のコツや技術が提供されるので、IT 担当者は Strobe を使ってアプリケーションパフォーマンスの問題を管理する手法をすばやく身につけることができます。APM Capability Maturity Model 内の上方移動における Strobe の支援方法を中心とした「ベストプラクティス白書」を使えば、コンピュウェアの APM ソリューションをより有効的に活用できるようになります。

Manery は続けます。

「ホームキャッシング、航空機の予約、在庫追跡確認など、新たなアプリケーションの追加によってメインフレームの処理が増えたため、市場は急激に変化しています。同時に、分散型システムとメインフレームシステムの接続も増えており、この大きな変化により、新たなシステムアーキテクチャには、よりパフォーマンスの良い管理が求められる事態に至っているのです。PurePath と Strobe が誇る、最高クラスでトランザクション中心の技術により、独自の立場を築いているコンピュウェアは、これらの要求にも応えていけると自負しています」

コンピュウェアのメインフレームソリューションについて

コンピュウェアのメインフレームソリューションは、世界有数の多くの大企業の開発者の生産性の最大化、コストの最小化、より良いサービスの提供を支援します。これらのソリューションは、直感的かつ使いやすいグラフィカルなユーザーインターフェースを誇るオープン開発環境である、Compuware Workbench の一部としても利用できます。Compuware Workbench はメインフレーム共通のタスクの実行を迅速化・単純化し、経験あるメインフレーム技術者でも新人でも作業しやすい環境を提供しているため、企業は現状のリソースを用いて、新たなサービスをより迅速、効果的、かつ高品質で提供できるようになります。

Compuware APM は、Web、非Web、モバイル、ストリーミング、クラウドアプリケーションといった様々なアプリケーションのパフォーマンス最適化を実現する業界屈指のソリューションです。エンドユーザー体感に基づき、ユーザーが利用するブラウザから、クラウドを通じてデータセンターにいたる、アプリケーションデリバリーチェーン全体の統一ビューを提供します。

コンピュウェアは、全世界で4,000以上の顧客企業が存在し、Gartner『Magic Quadrant for Application Performance Monitoring (APM)』において、「リーダー」に位置づけられています。詳しい報告書はこちらから参照できます：<http://bit.ly/q5jKi7>（英文のみ）

コンピュウェアは、Twitter、Youtube、Facebook からも情報を配信しています。

- ・<http://twitter.com/compuware>（米国本社アカウント：英語）
- ・http://twitter.com/compuware_japan（日本コンピュウェアアカウント：日本語）
- ・<http://www.youtube.com/user/Compuware>（米国本社アカウント：英語）

・<http://www.facebook.com/Compuware> (米国本社アカウント: 英語)

■ コンピュウェアコーポレーションについて

コンピュウェアは、'The Technology Performance Company'として、IT が問題なく稼働し、ビジネスに貢献するための、ソフトウェア、エキスパート、ベストプラクティスを提供します。コンピュウェアのソリューションは、全世界のリーディングカンパニーが IT を最大限活用できるように支援しています。これらのリーディングカンパニーには、フォーチュン 500 上位 50 社のうち 46 社や、米国の Web サイト企業上位 20 社のうち 12 社が含まれています。

- ・米コンピュウェアコーポレーション <http://www.compuware.com> (英文)
- ・日本コンピュウェア株式会社 <http://compuware.co.jp/>

■ お問い合わせ先

・報道関係の方

日本コンピュウェア株式会社広報事務局 (株式会社ジャパン・カウンセラーズ内)

TEL: 03-3523-8210、Email: compuware@jc-inc.co.jp

・Compuware メインフレームソリューションをご検討の方

日本コンピュウェア株式会社営業部代表

TEL: 03-5473-4531、Email: marketingjapan@compuware.com

※記載されているすべての製品名および会社名は各所有者の商標です。